

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 元年 7月30日

東員町議会 総務建設常任委員会

委員長 大谷 勝治 様

東員町議会 総務建設常任委員会

委員 鷺田 昭男

研 修 報 告 書

研修期間	令和元年 7月22日（月） ～ 7月23日（火）【 2日間】
研修（視察）先	熊本県益城町 熊本県熊本市
目的（テーマ等）	災害によるライフラインの復旧について 水源かん養地対策についての取り組みについて
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

令和元年7月30日

総務建設常任委員長 大谷勝治 様

東員町議会議員

鷲田 昭 男

研修報告書

研修期間

令和元年7月22日(月)～7月22日(火)

研修場所

熊本県益城町および熊本市

益城町 研修事項

災害によるライフラインの復旧について

- ・ 上水道、下水道の被害状況
- ・ 復旧するまでの課題
- ・ 水源地〔井戸〕への影響

上記について研修予定であったが、当日に大雨の影響で視察困難の連絡を受け益城町の研修は受けられなかった。

熊本市 研修事項

水源涵養地対策についての取り組みについて

◎水保全課より熊本市の地下水について説明

熊本市の地下水は阿蘇山の噴火がもたらした大地を生んでいる。この水は阿蘇山から20数年をかけて熊本市に入り、加藤清正が開発を行った水田を5年から10年をかけて熊本市に流れている。(この水田をザル田とも言われているそうです) この地下水で賄われているのは日本で、この熊本市のみである。

また水源の一つである健軍水源地は日量16万トンを排出している。この水はミネラルを多く含んでいるミネラルウォーターとして利用されている。

◎ 次に水量保全課より安全な地下水について説明を受ける。

まず取り組みの一つとして地下水観測地点として33箇所置いている。これによると近年地下水は経年劣化により3割程度減少している。水の安全対策として転作田を利用した水田地帯を設けている。〔清正公〕の通常5倍ほどとなっている。

水利用についての近隣と協定を結び協定には環境保全等も織り込んでいる。さらには協議会組織をつくり、水田淡水農家には熊本市から補助金を出している。



森林には水源涵養林整備事業として近隣市町と協定書を交わしている。今後100年をかけて森林涵養地を作る整備計画があります。

このほかに水質保全対策や節水対策さらに熊本ブランドとして水のペットボトル製造を行っている。

また、水を後世に残し伝える事業。「名水百選に入っている。」や災害が発生した場合には市内の企業と地下水飲料水の利用協定を結んでいる。

熊本市は、命の元となる地下水を最大限活用し、市民の協力による、現状把握と今後の先を見越した取り組みは我々の町には取り入れることは出来ないが、水利用について多くの知識を得られた。